

2022.09.08. 木曜礼拝 文化に屈する

エレミヤ書 23 章

JD ファラグ牧師

23 章です。先週の 22 章の続きですが、今夜は 1 章だけである理由が、皆さん間もなく分かると思います。今夜は 1 章だけである理由が、皆さん間もなく分かると思います。では祈りましょう。御言葉の中で共に過ごす時間を神が祝福してくださるよう求めましょう。宜しければ一緒に。愛する天のお父さま、私たちの心を静め、聖霊によって私たちの注意をあなたに集中させ、私たちの一日、一週間、人生のすべての忙しさに注意を向けられないようにしてください。

主よ、私たちは集中力を保ちたいのです。気が散らないようにしたいのです。私たちは、今夜、特にこの章、目の前にあるこの章であなたが用意されているものを見逃したくないのです。

主よ、私たちは御言葉の中で、あなたが私たちにピッタリ当てはまることばを用意されていることを知っています。あなたがあなたの教会、あなたの民として私たちに言われることを聞く耳を持ちたいです。

主よ、もしそれが励ましや、もしくは叱責や矯正や指導や、何であっても、

主よ、私たちは心を開いて、それを受け取りたいです。主よ、感謝します。この章が聖書の中にあることを感謝します。いくつかの点で厳しいものがありますが、それは良い厳しさです。ですから主よ、感謝します。私たちは本当にあなたを愛しています。イエスの御名によって、アーメン。

それでは。今夜の章を前にして、先に読み進めている人は、もうこの先が見えているかもしれませんが、しかし、これは聖書の中で最も厳しい告発の一つであり、マタイの福音書 23 章に匹敵するものであることは間違いありません。皮肉なことに、イエスが律法学者やパリサイ派の人々を叱責したときのことで。・・・これはおそらく、そのレベルに達していると思います。残酷です。それは特に、牧師、指導者たちに向けられたもので、さらに言えば、どのように霊的指導者がその時代の文化に屈し、大衆の意見に屈し、その時代の大衆文化に黙って従うのか、ということです。さらに言えば、どのように霊的指導者がその時代の文化に屈し、大衆の意見に屈し、その時代の大衆文化に黙って従うのか、ということです。さらに言えば、どのように霊的指導者がその時代の文化に屈し、大衆の意見に屈し、その時代の大衆文化に黙って従うのか、ということです。そして、これからわかるように、その影響は広範囲に及んでいるのです。その結果、人々は主を冒瀆し、主を捨てることになるのです。そして、その結果としていつも起こるのは、自分の心のままに歩むことです。さて、これは主に政治的リーダー、ビジネスリーダー、そして何よりもまず霊的リーダーに向けられたものです。しかし、ここが重要なのですが、現実には、人々はこの世俗的な肉欲に加担していたのです。私がこのように言うのには理由があります。彼らにはエレミヤがいたので、責任があったのです。彼らは、預言者としてのエレミヤを拒絶し、偽りの平安の偽りのメッセージを伝える偽りの預言者に付き従ったのです。先ほども言ったように、ここからはちょっと残酷で厳しい展開になるのです。でも、私たちならできます、そうですね？ 1 節。

—エレミヤ 23:1—

「わざわざいだ。

どうですか？ おお、さらに悪くなります。...牧者たち...さて、欽定訳をお持ちであれば、「牧者たち」は「牧師たち」とあります。牧者たち、指導者たち。当時の王は、神の民を牧する者です。

—エレミヤ 23:1—

...”わたしの牧場”の群れを滅ぼし散らしている牧者たち—主のことば。」

ーエレミヤ 23:2ー

それゆえ、イスラエルの神、主は、「わたしの」民を牧する牧者たち（牧師、指導者たち）についてこう言われる。「あなたがたは」わたしの」群れ散らし、これを追い散らして顧みなかった。見よ。わたしはあなたがたの悪しき行いを罰する。ー主のことばー

これで今夜、どんなことが待ち受けているか、おわかりいただけたでしょうか？ 聖なる強さだと思うのですが、同意されますか？ そして、神の群れである羊の群れを散らした牧者たち、彼らを顧みなかった指導者たちに関する聖なる強さです。これがまさに、彼らがしていたことです。3節。

ーエレミヤ 23:3ー

しかしわたしは、わたしの群れの残りの者を、わたしが追い散らしたすべての地から集め、元の牧場に帰らせる。彼らは多くの子を生んで増える。

ーエレミヤ 23:4ー

わたしは彼らの上に牧者たちを立てて、彼らを牧させる。彼らは二度と恐れることなく、おびえることなく、失われることもない。ー主のことば。

ここで推測されるのは、彼らが恐れ、うろたえ、欠けていて、飢えていたのです。なぜなら養われていなかったからです。このことから、ペテロとイエスとのやり取りが思い浮かんだとしたら、それは良いことです。イエスはペテロを回復させるために3度尋ねられます。「ペテロ、あなたはわたしを愛しますか？」そして、ペテロがイエスへの愛を測られる基準は、「わたしの羊を養いなさい」だったのです。

「わたしの羊を養いなさい」(ヨハネ 21:17)

世話をしたり、羊毛の手入れをしたり、毛を刈ったり、油を塗ったりできても、もし食べさせなければ、彼らは死んでしまいます。飢えてしまいます。それが牧者たちがしていることです。愛のある牧者、良い牧者は、群れを養います。5節。

ーエレミヤ 23:5ー

見よ。その時代が来る。ー主のことばー そのとき、わたしはダビデに一つの正しい若枝を起こす。彼は王となって治め、栄えて、この地に公正と義を行う。

ーエレミヤ 23:6ー

彼の時代にユダは救われ、イスラエルは安らかに住む。『主は私たちの義』。それが、彼の呼ばれる名である。

聖書の中にある多くの神の御名の一つです。これは、『主は私たちの義』エホバ・ツイッケヌ『主は私たちの義』さて、これはせいぜい場違いな補足のようなものです。というのも、牧者たち、つまり群れを散らした指導者たちが、群れを養わず、世話をしなかったことに対する呪いの宣告を読み終えたところだからです。そして突然、来たるべきメシアについて、この挿入的な預言的な一節が出てきたのです。なぜでしょう？

答え：この、彼ら、ユダがしていることは、このレベルにまで...これは深刻な問題のレベルにまで達しているのです。何が問題だったのでしょうか？ ああ、そこから世界の救い主が生まれるのです。それを台無しにしているのですか？ ここでの危機的状況のゆえに、神が介入され、中断しなければならないのです。いいですか、神は破ることのできない契約を交わされ、約束をされました。約束とは何か？ 救い主はユダから、ダビデの系統から、エッサイの根から、義の枝から生まれるということです。

「あなた方は、そのすべてを台無しにするために、可能な限りのことをしています。わたしが入って行

き、戻って来て、それを正さなければならないのです。だからこれは、あなたにもかかわらず、わたしがすることです。そうしなければならないのです。妨害しようとしても、そうはいきません。救い主は一度目は苦しむしもべとして、二度目は打ち勝つ王の王として来られるのです。では改めて、なぜここにこのような挿入があるのでしょうか。なぜなら、エレミヤは人々に語りかけ、エレミヤを通して神は、ここで何が重要であるかを思い起こさせているからです。「救い主はあなたから生まれるのです。」7節。

ーエレミヤ 23:7ー

それゆえ、見よ、その時代が来る ー主のことばー。そのとき、もはや人々は『イスラエルの子らをエジプトの地から上らせた主は生きておられる』と言うことはなく、

ーエレミヤ 23:8ー

『イスラエルの家の末裔を、北の地や、彼らが散らされていたすべての地から上らせた主は、生きておられる』と言って、自分たちの土地に住むようになる。」

分かりました、待ってください。エジプト脱出は、かなり大きなことでした。それが参照されたということです。「エジプトの地から導き出された主なる神。』『エジプトの奴隷状態から救い出してくださった主なる神』とは、もはや言及されることはないでしょう。今は、その代わりに、『北の国バビロンからあなたがたを上らせてくださった主なる神』と言及することになります。

「えっと、待ってください。では、もうエジプトではないのですか？ それにすごく慣れていました。暗記していたのに、今度はそれを食べるなんて。『あなたを上らせた主なる神...』と。また改めて、疑問が出てきませんか？ なぜか？」お～、興味深いです。非常に興味深いです。どうかこれを見落とさないでください。考えてみてください。神がエジプトから救い出されたエジプトの人々は、エジプトで生まれ、それ以外の場所を知りませんでした。彼らは、自分たちの罪と悪と反抗のために、エジプトの奴隷になったわけではありません。彼らが救い出されたことを神に感謝します。では、これは主による、主の御手による、より壮大で輝かしい解放であると納得していただけるのでしょうか。この人たちは、捕虜となるのが当然だったのです。イスラエルの子らがエジプトにいた時、彼らの反逆のためではありませんでした。

一方で、バビロンへの捕囚は、彼ら自身の罪と悪のためでした。この節と、5節から始まる、ダビデから来る義の若枝であるメシアの到来を預言的に語っている節には、この共通項があります。人間がどんなに悪人であっても、神の善意があるということです。ダビデのことを思い出します。サムエル記の学びで個人的に得た教訓の一つでもあります。私たちはダビデのことを非常に良く知りましたね。知り過ぎたかもしれません。ダビデについて、知らなければよかったと思う情報もありました。バテシェバの部分は、なくても良かったのに。もし私が神なら、それを省くでしょう。神はそうなさらず、入れられました。さらに悪いことに、ダビデが何をしたかが生々しく記録され、それを隠蔽しようとして彼女の夫を殺そうと企んだことも記録されています。ウリヤを戦場から帰らせ、妻の元に行かせようとしたことについては、本当に知りたくなかったです。そうすれば、「お～、彼女は妊娠した。おめでとうウリヤ！」となるからです。しかし、ウリヤはそうしませんでした。ですから今、ダビデはより大きな問題を抱えています。それで彼はどうするのか？ ダビデは手紙を書き、封をして、軍司令官に渡すようにとウリヤに託すのです。その手には自分の死刑宣告があることを彼は知りません。そして、それが実行されます。

その指示は、ウリヤを前線に出して、他の部隊を撤退させるというものであり、そうすればウリヤは殺されるからです。それがまさに起こりました。非常に興味深いです。これまた、この詳細を知らずに一生を終えたかったのに。しかし、ダビデの計画通りにウリヤが殺されてしまうのです。それは実行され、ダビ

デに報告されるのです。ダビデの反応は？「戦争の犠牲者たち。」そんなこと知りたくありません。私は甘美なイスラエルの詩人について知りたいのです。「分かりました、これで話は決まりです。」神の御心に適う心を持った、この男のことを知りたいのです。しかし、ダビデは姦淫者であり、殺人者です。どういうことでしょうか？ お～、どういうことかお話ししましょう。ダビデがどれほど悪いかを示すために記録されているわけではありません。とはいえ、そうなのですが。しかし、ダビデがいかに悪人であったとしても、神がいかに良いお方であるかを示すためなのです。そしてそれは、今夜ここにいる私たち一人ひとりに希望を与えてくれるはずです。何があっても、神は良いお方です。何があっても。

「ああ、でも、私は本当に悪いことをしたんだ。」最近、ダビデと話をしましたか？ 悪いことについて話したいですか？ つまり、ダビデがしたことは…それでも神はダビデを赦され、祝福されたのです。興味深いのは、ダビデが主のために家を建てたかった時、神はこう仰います。「ダビデ、それは本当に嬉しい。」非常に緩い言い換えですが、お許しください。「とても感謝している。しかし、あなたはあまりにも多くの血を流した。あなたがわたしのために宮を建てるのではなく、あなたの息子ソロモンが宮を建てます。」ダビデは何をしましたか？ 彼はすべての資源を持っていたんです。神は彼を豊かに、非常に豊かに祝福されました。そこで彼は、材料をすべて購入し、主のために家を建てられるようになりたいと強く願ったのです。主の返答はどうだったのでしょうか？

「ダビデ、あなたがわたしに家を建てるわけではありません。わたしがあなたに家を建てます。」中東の文化では、私たちの文化では見過ごされていますが、「○○の家」というからです。「ワヒドの家」「J.D.の家」「ダビデの家」「エッサイの家」「わたしがあなたに家を、あなたの血統を建てます。世界の救い主は、あなたから生まれるのです。」そして、早送りすると、もしまた、これが私が神でない理由なら、これはあなたも神でない理由です。あなたも同じことをするでしょうから。ダビデはすべてのことをした後、私ならこう言うでしょう。

「契約は破棄します。私は他の誰かを探します。世界の救い主をあなたの血筋から出すつもりでしたが、あなたはしてしまったので、それは忘れてください。あなたはクビです。」

そんなことはしません。神は約束を守られ、約束を破ることはありません。これは契約です。別のたとえば、あまり突っ込んだ話はしたくないのですが、とても重要なことです。その理由は、ここですぐにわかると思います。神がアブラハムと契約を結ばれたときのことを思い出してください。そこから、現代では cut a deal (契約を結ぶ) という表現が使われるようになったのです。その時代、当時の文化では、いわば契約をどう切るか、どう取引するかということです。動物を捕まえて、文字通り切り刻んで、ばら撒くのです。つまり、血まみれです。この契約に同意した二人は、その切断された動物の間を歩き、もし、その誓いを破ったら、この動物たちにされたことが自分にもされるようにと、お互いに誓い合っていたのです。これを表す言葉があります。「抑止力」大丈夫ですか？「抑止力」「分かりました。私は契約を破れません。この動物たちのように切り刻まれるのは嫌なので、破ることはしません。それは cut a covenant/ 契約を切る (結ぶ) と呼ばれました。神はアブラハムに切り裂いた動物を用意させられ、「契約を結ぼう」と。ここでアブラハムが、「分かりました。準備ができました。」そこで神が来られます。神は何をなさいますか？ 神はアブラハムを深い眠りにつかせられます。(創世記 15:12 参照) 深い眠りにつくとは、良い響きですよ？ 深い眠りにつき、そこで神は切り裂かれた動物の間を歩かれ、契約を結ばれるのです。アブラハムは目を覚まし、「え…??」「終わりましたよ。完了しました。」「待ってください、私は歩いていません。」「あなたはする必要はありません。あなたがわたしと契約を結ぶわけではありません。

(正直になりましょう。) あなたは破ってしまうでしょう。]

神は私たちの不従順に加担することはなさいません。つまり、神とアブラハムとの間の契約ではなかったのです。アブラハムと神との間の契約ではなかったのです。それは、神からアブラハムへの契約だったのです。アブラハムはサインしませんでした。アブラハムは契約を結ばなかったのです。承認することも、同意することもなかったのです。だから、同意していないものを破ることはできないのです。重要なのは、私たちがどんなに悪くても、神の善意によって契約は果たされるということです。さて、9節。これはさらに... あ〜、これは厳しいです。これはエレミヤです。今回もまた、涙の預言者の心を垣間見ることが出来ます。

ーエレミヤ 23:9ー

預言者たちについてー私の心は、うちに砕かれ、私の骨はみな震える。私は酔いどれのように、ぶどう酒に負けた男のようになった。主と、主の聖なることばのために。

ーエレミヤ 23:10ー

地が姦通する者で満ちているからだ。地はのろわれて喪に服し、荒野の牧場は乾ききる。彼らの走る道は悪で、その力は正しくないことに使われる。

何が起きているかわかりますか？ エレミヤの真の姿、私たちはエレミヤのことが分かかってきて、私たちはエレミヤのこのようところが大好きです。彼はとても心優しく、柔らかい心を持ち、とても愛情深い人です。こういうことがあると、彼は本当に傷つくのです。あまりのことに、彼はよろめき、呆然としています。このイメージを見てください。9節でのこの考え、「私の心は、うちに砕かれ、」彼は苦悩しています。精神的、感情的、肉体的に。肉体的、心理的にも影響を与えるからです。彼の骨は震えています。まるで酔っぱらいのようなのです。彼はただ呆然としていて、エレミヤは、彼らがどれほど邪悪な存在になるのか、どうしても理解できないのです。誰が邪悪になったのか？ 他の預言者たちです。このような預言者たちの邪悪さのゆえに。「地が姦通する者で満ちているからだ。」そのことをよく考えてみてください。預言者たちは、姦淫者だったのです。全ての人々が姦淫を犯し、地がのろわれ、悪が酷いのです。邪悪なのです。それは、エレミヤに大きな影響を与えます。エレミヤに与える影響に注目してください。エレミヤは街角に立ち、彼らを非難して、怒っているではありません。違います。エレミヤは、彼らに心を痛めているのです。このような人々を見たとき、これが私たちの反応であるようにと神に願います。イエスが仰ったことを考えます。イエスは責めるためではなく、失われた人々を救うために来られたのです。(ルカ 19:10 参照)

それが神の人々への思いです。これは以前にもお話ししましたが、もう一度簡単にお伝えするのが良いかもしれません。神はこれに関して、私の心の中に力強く働いてくださいました。以前は、私はただ興奮し、動揺し、怒り、憤慨していました。そして、ただなんというか私はいつも「正義の怒り」という言葉で片付けてしまうんです。いやあ、そうではないのです。そして、主が私をつかまえてくださり、主の恵みの中で、私の怒りや憤りの対象であった人たちを、主の御目を通して見る事ができるようになったのです。それがすべてを変えました。彼らに対して怒るのではなく、ただ哀れに思うようになったのです。よく考えてみれば、もし、携挙が起こったとしたら...、このことについて考えたことがありますか？ 私は考えます。言っておきますが、重いです。しかし、もし携挙が起こったら、彼らは取り残されます。その意味を理解していますか？ 彼らは何を経験するのか？ そして、患難の間にキリストに命を捧げ、「患難時代の聖徒」と呼ばれる人たちの中に加わると、誰が言えるでしょうか。ある方の言葉が好きです。

「患難時代の前にキリストのために生きようとしなければ、患難時代の中でキリストのために死のうと思ってしまうのか。」これは大きく流れを変えませんか？ どのように人々を見るのかを。クリスチャン仲間に腹を立てない、牧師なら、牧師仲間に腹を立てない。胸が張り裂けそうです。それが神の御思いです。11節。さて、何が起こっていたのか、もう少し詳しい詳細があります。

—エレミヤ 23:11—

「実に、預言者も祭司も汚れている。”汚れている”を覚えておいてください。わたしの家の中にも、わたしは彼らの悪を見出した。—主のことば—

—エレミヤ 23:12—

それゆえ、彼らの道は、暗闇の中にすべりやすい場所のようになり、彼らは押しやられて、そこに倒れる。わたしが彼らにわざわいをもたらし、刑罰の年をもたらすからだ。—主のことば—

では、この辺で少しご辛抱ください。「汚れている」という言葉について話す必要があります。というのも、「汚れ」という言葉を聞くと、その言葉から派生した別の言葉、つまり「冒涇」と結びつけてしまうかもしれないからです。悲しいことに、それはそこで起こっていたことを説明するのに十分なものではありません。冒涇とは、聖なるものを世俗的なものと共有させることです。それは、ある人が適切に言ったように、彼らの世俗性によって、神の家を世俗化することなのです。文化に屈するというのは、こういうことです。聖なるものをより身近なものにするために。よりもっともらしく、より友好的に。

「私たちは、ちょっとだけ...そう、ちょっとだけ角を柔らかくして、そんなふうにならないようにしようと思っています。」結局のところ、この考え方は…冒涇的ですが、こう言います。

「私たちは世界に届けたい。だから私たちは世界に届くためにより世界に似た存在になろう。」それでは、問題があります。なぜなら、区別がなくなるからです。違いがないのです。あなたは聖なるものを冒涇し、世俗的なレベルにまで下げてしまったのです。そして、私はここで本当に理解に苦しんでいます。

「ちょっと待ってください。...ああ、大衆文化、大衆の意見によれば文化的に正しいね。ああ、あなたは、文化的には間違っていない。」といった感じです。しかし、その代償は？ 世界にアピールするために、何をしなければならなかったのでしょうか。そのとき何が起こるのか、言葉は悪いですが、とても生々しく見ることとなります。13節。

—エレミヤ 23:13—

サムリアの預言者たちの中に、わたしはごまかしを見た。彼らはバアルによって預言し、わたしの民イスラエルを迷わせた。

—エレミヤ 23:14—

エルサレムの預言者たちの中に、わたしはおぞましいことを見た。彼らは姦通し、嘘をついて歩き、（よく聞いてください）悪を行う者どもの手を強くして、その悪から、だれも立ち返らせない。…

「大丈夫ですよ～」

…彼らはみな、わたしにはソドムのものであり、その住民はゴモラのようなのだ。」

恐ろしいことです。これは恐ろしいことですね？ 恐ろしいこと？ 恐ろしいことです。これは恐ろしいことで、恐ろしいのです。まあ、こんにちも健在です。どんなふうに？ 妥協するリーダーは、他の人を妥協させるのです。14節をもう一度見てください。「悪を行う者どもの手を強くして、」「あなたは悪を強化している。彼らはあなたのおかげで、以前よりもさらに強く悪事を続けているのです。」彼らの悪事

を強化するために何をしたのですか？ ああ、見て見ぬふりをしたんですね。あなたは、文化に屈してでも、それを肯定していたのかもしれませんが。なぜなら、有名な宗教指導者や霊的リーダーがこう言うのを想像できますか？「大丈夫さ。さあ、何が問題なんだい？」いわば、彼らは決意を固めているのです。さらに、こんな説明もあります。「その悪から、だれも立ち返らせない。」「なぜ、そんなことを？ あなた（指導者）は大丈夫って言ったじゃないですか。あなたはすでに聖なるものを冒瀆しています。神の御言葉を根こそぎ捨てています。」これから見ていくように。「あなたが悪の限りを尽くしているのに、どうして私が悪から身を引かなければならないのですか？ あなたは妥協しています。どうして私が...」それがリーダー／指導者というものです。単純化しすぎかもしれませんが、リーダーの仕事って何だかわかりますか？ 奥が深いですよ。リードすることです。リードするためには、人々があなたのリードに従うということです。彼らはリーダー／指導者なのです。彼らは人々を、このことに導いていたのです。彼らが指導者であるがゆえに、人々を妥協に導いているのです。人々は、このような妥協した指導者に従っているのです。指導者が邪悪なので、人々も邪悪なのです。指導者たちが悪事を行っているので、人々も悪事を行うのです。15節。進まなければいけませんね。

ーエレミヤ 23:15ー

それゆえ、万軍の主は、預言者たちについてこう言われる。「見よ。わたしは彼らに、苦よもぎを食べさせ、毒の水を飲ませる。不敬虔がエルサレムの預言者たちから出て、全土に広がったからだ。」

ーエレミヤ 23:16ー

万軍の主はこう言われる。「あなたがたに預言する預言者たちのことばを聞くな。彼らはあなたがたを空しいものにしようとしている。彼らは主の御口からではなく、自分の心の幻を語っている。」

ーエレミヤ 23:17ー

彼らは、わたしを侮る者に向かって、『主はあなたがたに平安があると告げられた』としきりに言い、頑なな心のままに歩むすべての者に向かって、『あなたがたにはわざわいが来ない』と言っている。」

「すべて大丈夫。平安。」こっちはエレミヤがいて、「悔い改めなさい！」この預言者たちは、「リラックスして。なぜそんなに堅苦しいんだ？ エレミヤがあっちで、お先真っ暗な、裁きを語っているのは知っている。いやいや、リラックスして～。何も悪いことは起こらないさ。そんなこと起こらないよ。平安、平和。」平安なんてないのに。彼らは人々を欺いているのです。人々に嘘をついているのです。悲しいのは、これは、こんにち、多くの説教壇から聞かれる言葉です。繰り返しますが、この件に関してご容赦ください。こういうことをする人は、人に好かれたいと思っているのです。それ以外の理由で、どうして牧師が、「さあ、大丈夫だ。リラックスして。」と言うのでしょうか。

「オアフ島の北東側で、『それが起ころうとしている。おしまいだ。これで終わりだ。』と言っている奴がいるのを知っている。リラックスして。」そして私はここで叫び、怒鳴って、最前列のみんなに唾をかけています。間もなく見ていきますが、エレミヤはたった一人だったことが、分かったと思います。一人だったのです。この偽預言者が何人いたかを推定する人もいますが、何人だったとしても、その人数に対して、一人だったのです。5000人だったとしましょう。「そんなに多くないですよ？」必ずしもそうではありませんが。他の5000のミニストリーが同じことを言っています。

「ああ、あなたがたには平安があります。災いが降りかかることはありません。」5000です。あなただけが立ち上がって、こう言っているのです。「違います！それは来ようとしている。それは起こるのです。これでおしまいです。」たった一人だけ。18節

—エレミヤ 23:18—

しかし、だれが、主との親しい交わりに加わり、主のことばを見聞きしたか。だれが、耳を傾けて主のことばを聞いたか。

—エレミヤ 23:19—

見よ。(聞いてください) 主のつむじ風が憤りとなって出て行く。荒れ狂う暴風が悪者の頭上で荒れ狂う。

—エレミヤ 23:20—

主の怒りは、その心の御思いを行って成し遂げるまで去ることはない。終わりの日に、あなたがたはそれを明らかに悟る。

これは、終わりの時代について語っているのではありません。こう言っているのです。「終わりには、ユダよ、あなたは気づくでしょう。」「お～、わお...」と。しかし、ここで問題です。手遅れになるのです。「遅すぎる」ということがあるのです。「手遅れだ」と言われる時があります。あなたがそれに気づくとき、手遅れなのです。なぜなら、彼らが来ないと言ったものが、来るからです。そして、神の御怒りが来るだけでなく、彼らは「いや、来ないよ」と人々に言っていたのです。いいえ、それは来ます。そして、それは熱い旋風のように激しく、素早くやってくるのです。今にわかります。しかし、その時にはもう手遅れでしょう。21 節。

—エレミヤ 23:21—

「わたしはこのような預言者たちを遣わさなかったのに、彼らは走り続ける。わたしは彼らに語らなかつたのに、彼らは預言している。

—エレミヤ 23:22—

わたしとの親しい交わりに加わっていたなら、彼らは、わたしの民にわたしのことばを聞かせ、民をその悪い生き方から、その悪しき行いから立ち返らせたであろうに。

これは、今読んだことと一致します。彼らはその悪から立ち返らず、邪悪なものから立ち返ろうとしない。この偽りの牧師や牧者、預言者、祭司たちが、ただ神の御言葉を宣言していれば、彼らは立ち返ったことでしょう。彼らは立ち返って救われたはずだが、あなたはそうしなかつた。あなたは彼らが聞く必要のあることは語らず、彼らが聞きたいことを語ったのです。そして、そのまま走り続けました。

「民をその悪い生き方から、その悪しき行いから立ち返らせたであろうに。」23 節。

—エレミヤ 23:23—

わたしは近くにいれば、神なのか。—主のことば— 遠くにいれば、神ではないのか。

—エレミヤ 23:24—

人が隠れ場に身を隠したら、わたしはその人を見ることができないのか。—主のことば— 天にも地にも、わたしは満ちているではないか。—主のことば。

—エレミヤ 23:25—

わたしの名によって偽りを預言する預言者たちが、『私は夢を見た。夢を見た』と言うのを、わたしは聞いた。

「本を書こう。本を書こう。」「ユーチューブで動画を出そう。ユーチューブで動画を出そう。」失礼しました。26 節。

—エレミヤ 23:26—

いつまで、あの預言者たちの心に偽りの預言があるのか。心の偽りごとを語る預言者たちのうちに。

これを聞いてください。

—エレミヤ 23:27—

彼らの先祖がバアルのゆえにわたしの名を忘れたように、彼らはそれぞれ自分たちの夢を述べ、わたしの民にわたしの名を忘れさせようと、企んでいるのか。

—エレミヤ 23:28—

夢を見た預言者は夢を語るがよい。しかし、わたしのことばを受けた者は、わたしのことばを忠実に語るなければならない。麦は藁と何の関りがあるだろうか。—主のことば—

おお、これは興味深いです。もみ殻を知っていますよね？ ふわっとして中身がない。それがこれです。おお...幻だ、夢だといって...「ねえ、ほら、これを教えてあげよう。」牛肉はどこ？ 麦はどこ？ 中身は？ これはすべてふわふわして、もみ殻なのです。ここがもみ殻の問題点です。たくさん食べられますが、決して養分にはなりません。あなたは死にます。栄養がないからです。麦にはあります。それが御言葉です。29節。

—エレミヤ 23:29—

わたしのことばは火のようにではないか（おお、その通りです）—主のことば—。

「おお、その通りです」は原文にはありませんよ。JD 訳です。—（笑）—

—エレミヤ 23:29—

わたしのことばは火のようにではないか。—主のことば—。岩を砕く金槌のようにではないか。

神が預言者エレミヤを通してここで言うおられることがわかりますね。「わたしのことばは火のようにではないか」火は何のためにあるのか？ 燃やしたり、温めることができます。焼き尽くすのか、または精錬するのか。それほど、火は力強いのです。神の御言葉は、そんな火のようなのです。時には、私たちは燃やされることも必要です。時には、温めてもらうことも必要です。神の御言葉は、そうさるのです。金槌はどうですか？ 考えてみてください。金槌で壊すこともできれば、建てることも出来ます。時に、神の御言葉がそうする必要があるので。私たちのプライドを打ち砕き、御霊によって私たちを建てる必要があるのです。金槌のようなのです。だから、彼らは御言葉を忠実に語っておらず、このように、彼らは神の御言葉が持つ、温め、精錬し、建てるための火と金槌としての力を、人々から奪っていたのです。手短に、もう一つこの件に関して。この教会に少しでも長く通っている方、オンラインで見られる方は、もうお気づきだと思います。当たり前のことなのですが、ここでは御言葉を教えています。繰り返しますが、それは当たり前のことなのです。書ごと、章ごと、節ごとに、神のすべての御計画を教えています。神の御言葉の火と神の御言葉の金槌と、神の御言葉の栄養となる麦の結果、何が起こったか知っていますか？ お～わお。お～わお。そして、あなたはそれを人々から奪おうとしている。質問させてください。フワフワ、パフパフ、パシャパシャ、ピカピカしたものがあるとしましょう。すべて韻を踏んでいますよね。それが現実で、...「リラックスして。神はあなたを愛しています。すべて大丈夫です。平安、平和。だって、私たちはあなたたちに戻って来てもらいたいから。」

では、その下に座ってそれを聞いている、生きるか死ぬかの状況にいる人のことはどうするのですか？ あなたはそこに出て来て... 私がこれを言う強さをお許しください。あなたは綿菓子のようなキリスト教をもって、そこに出て来るのです。彼らには火のような神の御言葉が必要なのです。金槌のような神の御言葉が必要です。

「ええ、でも、人々は立ち上がって出て行ってしまふんです。」大丈夫です。

「愛する者を傷つけるのは誠実による。憎む者は多くの口づけでもてなす。」(箴言 27:6)

最初は恨むかもしれませんが、いずれは感謝するようになります。逆に言えば、そうしないなら、最初は感謝されるかもしれませんが、「牧師さん、ありがとう！」最後には、「なぜ言ってくれなかったの？」人々はあなたを恨むでしょう。「あなたは私を愛していません。あなたは自分自身を愛しています。(自己愛です) なぜなら、もしあなたが本当に私を愛しているなら、私を養ったでしょう。あなたは私に真実を話してくれたでしょう。」私たちは愛を持って真実を語りますが、愛しているからこそ真実を語るのです。もしあなたが愛していないなら、わざわざ悩むことはありませんよね？ そうですよね？ そんな風に見ないでください。合ってますね？ あなたが誰かに真実を伝える理由は、人間関係を危険にさらす理由は、危うくさせる理由は？ あなたがその人を、真実を伝えるほどに愛しているからです。いいですか？ もし私があなたを愛していなければ、私はあなたに「ねえ、歯にほうれん草が付いてるよ。」とは伝えません。私はあなたを笑って、その場をやり過ごします。いいえ、私はあなたを愛しているので、「ねえ、歯にほうれん草が挟まっているよ。」と伝えます。なんとも恐ろしい例えですが、何でもいいでしょう。だからこそ、私にはもっとメモが必要なんです。その人のことを本気で気にかけているなら、真実を伝えるはずです。本当に愛しているならば、真実を語るはずです。私の妻は、私を本当に愛していることが分かります。なんと、妻は私に、たくさんの真実を語ってくれます。聞きたくありませんが、それは正しいのです。初めは、私はこんな感じで…そして最後には、「ありがとう。」「本当にありがとう。」ですから、私たちは神の御言葉の真理を人に伝えたくないのです。ところで、日曜日の預言アップデートでは…ふう～…！ 言えるのは、「ふう～！」それだけです。30 節。

一エレミヤ 23:30一

それゆえ、見よ 一主のことば一。わたしは互いにわたしのことばを盗み合う預言者たちの敵となる。

えっ?! どうしてそうなっているのですか? 「ああ、彼らはわたしのことばから、愛情、注意、献身を奪い、彼らはそれに、彼らの夢、幻、本、偶像を付けているのです。」31 節。

一エレミヤ 23:31一

見よ。わたしは 一主のことば一。自分の舌を操って、これがみことばだ、と言う預言者たちの敵となる。

これは、難しいものです。これは基本的に、その文化における意味を理解する必要があるところです。枠にはめ込んで、こんな風に説明してみましょ。言ってもいないのに、「彼らは言ったよ」と言うようなものです。そして、みんなに言って回って、舌を使って、あなたのために、“彼はこう言ったんだ”と語っているんです。「わたしはそんなこと言っていません。そんなことは言いませんでした。」それはよく言えば間違った説明、悪く言えば欺くことです。

「あなたは、わたしの名によって預言して話しています。わたしはそんなことは言っていません。」32 節。

一エレミヤ 23:32一

見よ。わたしは“偽り”(キーワード)の夢を預言する者たちの敵となる 一主のことば一。彼らは、偽りと自慢話をわたしの民に語って迷わせている。わたしは彼らを遣わさず、彼らに命じもしなかった。彼らは、この民にとって何の役にも立たない。一主のことば。

一エレミヤ 23:33一

この民、あるいは預言者か祭司が、『主の宣告とは何か』とあなたに尋ねたら、あなたは彼らに言え。…『宣告』とは、預言的な発言のことです。

...あなたは彼らに言え...

『宣告とは何か?』これは嘲りです。「ああ、今週のあなたの聖書預言アップデートは何ですか?」「あなたの宣告は何ですか?」「宣告は何?」あざ笑っているのです。主に耳を傾けてください。主はこう仰います。

...『わたしはあなたがたを捨てる一主のことば。』

一エレミヤ 23:34一

預言者でも、祭司でも、民でも、主の宣告という者があれば、わたしはその者とその家を罰する。」

一エレミヤ 23:35一

あなたがたは互いに『主はどう答えられたか。主はどう語られたか』と言うがよい。

一エレミヤ 23:36一

しかし、主の宣告ということ二度と述べてはならない。その宣告自体がそれを言う人自身のことばであり、あなたがたが、生ける神、万軍の主、私たちの神のことばを曲げることになるからだ。

「あなたはそれを嘲笑し、それを冒瀆し、曲解した。これで終わりです。これ以上はない。豚の前に真珠を投げるようなことはしない。わたしはスリッパの砂を振り落とす。」ビーチサンダルって言わないでくださいよ。引っ越したばかりの頃、その致命的なミスを犯してしまいました。「ビーチサンダル? あんた、どこから来たの?」この辺りでは、スリッパと呼んでいます。脱線しました。37節。

一エレミヤ 23:37一

「あの預言者たちにこう言え。『主はどう答えられたか。主はどう語られたか。』

一エレミヤ 23:38一

もし、あなたがたが主の宣告と言うなら、それに対して、主はこう言われる。わたしはあなたがたに、主の宣告と言うなど言い送ったのに、...

よし、もう一度やってみましょう。実はこの章の続きは、こんな感じなんです。理解することはおろか、読むことも困難です。でも、ここは聖霊の力で最善を尽くします。

一エレミヤ 23:38一

...わたしはあなたがたに、主の宣告と言うなど言い送ったのに、あなたがたは主の宣告というこのことばを使っている。

一エレミヤ 23:39一

それゆえ、見よ、わたしはあなたがたを全く忘れ、あなたがたとあなたがたの先祖に与えたこの都を、あなたがたとともに、わたしの前から捨てて、

一エレミヤ 23:40一

永遠の恥辱、忘れられることのない永遠の侮辱をあなたがたに与える。』

終わりです。祈りましょう。いえ、まだです。一(笑)一 そうしたいですが、出来ません。そうです、これを何とかしなければなりません。何でしょうか? こんなことが起きていたのです。このような預言の言葉を馬鹿にしているのです。「主の宣告」預言の言葉、主の重荷です。神はこのメッセージ、火のように燃えるものを、あなたの心に置き、あなたの心に重荷を負わせられました。そして、それを宣言すると、嘲りと嘲笑を受けるのです。使徒ペテロが言ったことのようにです。これこそが、終わりの時代のしるしとなるものです。(IIペテロ 3:3, 4)

このような嘲る者が出てきて、あなたを嘲るでしょう。「何のことであなたを嘲るのですか？」預言のことで、嘲られるのです。「預言とは何か、宣告とは何か、預言のことばとは何か、重荷とは何か。」ゼカリヤ書を読むと、翻訳にもよりますが、この重荷という言葉は、預言と訳されることもあります。ゼカリヤ12章に、「主の重荷」とあります。「主の預言」、重荷を負うことなのです。それは重荷となるものです。重いのです。

「エレミヤよ、今週はどんな重い話があるんだ？」嘲り、嘲り、嘲り...「あ〜、分かったよ。待って、言わなくていいから。『イエスが来られる』『携拳はいつでも起こりえる』あははは、何年前から毎週言ってるんだ？」嘲り、嘲り、嘲り...主は仰います。「本当ですか？　そういうことですか。最終決定はわたしがします。わたしはあなたを完全に忘れます。あなたを忘れる。」

まずかったですか？　実際ずっと、全身でそれを感じてましたけどね。

「あなたを忘れる。それがあなたのやり方なのか？　わたしをあざけるのか？　大きな代償と犠牲を払って忠実であったわたし預言者を嘲笑うのか。そして彼は、わたしが彼の心に置いた重荷、預言、発言、宣告に忠実である。これがあなたの応答なのか？　では、わたしはこのように応じよう。あなたの応答に対するわたしの応答はこうだ。わたしの前からあなたを追い出す。あなたはこれを拒絶したいのか？　わたしがあなたを拒絶する。」でも、「主は決してあなたを離れず、あなたを見捨てない。」ええ、そうです。あなたが神から離れ、神を捨てるなら、神はあなたを捨てられます。神がご自分を押し付けることはなさいません。

「あなたはメッセージを拒絶するのか？　わたしはあなたを拒絶する。あなたはこれを嘲るのか？　わたしはあなたを嘲る。最後に笑うのはわたしです。」これは…この章はこのように終わります。私の心境はお分かりだと思います。そうでなければいいのですが、そうする必要のあるのかもしれない。ところで、ぴったりだと思いませんか？　今夜学んだこの章全体が、ピッタリですよ。これは大変です。金槌だから硬くないといけないのです。打ち込まれる必要があるのです。私は砕かれなければならない、燃やされ、変えられる必要があります。変わるか燃えるか。そうかもしれませんね。そうなればいい。もしそれが必要であるなら。最後にもう一つ。これで締めくくります。私はちょうど今日、これについて考えていました。実は、日曜日の預言アップデートを見据えてのことです。「さあ、リラックスして。」とも言えるのです。そうですね？「お店に行くときに、もうマスクをする必要はないんですから。リラックスしてください。平安あれ。すべて大丈夫。」

こんな感じです。実は、これでシャツが作られたこともあるんですよ。これが大好きです。

「日常は戻って来ない。イエスが戻って来られる。」それって問題ではないですか？　ほら、もし物事がまた良くなって、普通に戻ったら、その分焼かれるのが軽くなるんじゃないですか？　だから突然今、私はちょっと...「大丈夫だ。心配ない。急ぐこともない。」でも、すべてが本格的に始まった時は、こう思いましたね。「おお、主よ！」それは良いことですね。良いことでした。しかし今や、「大丈夫だ。」といった感じです。「私たちはイケてる。大丈夫。」しかし、私たちが...本当はいけないでしょうが、言ってもいいですか？　1年前のこの時期、21年の9月、もしかしたらそんなに前ではないかもしれませんが、特にここハワイでは、5月だったかな？　他の州では？　とにかく...その話には行きたくありません。そうして、5月頃になると、物事がゆるやかになり、開放的になってきます。私たちは、「主を称えます！」しかし、1月...別の話ですが、それによって、人々は自分自身の限界を知り、主のもとへと導かれたのです。しかし、今は、もうそれほど緊急性はありません。私たちには金槌、火が必要なのです。それはつむ

じ風のようにやって来ます。カポノ、出て来て下さい。お立ちください。

祈りで締めくくりましょう。ちょっと泣きたくなりますよね？ あなたは何が起こるかわかっているのに、誰もが楽しい道に行くのです。ペテロの手紙でも、それが嘲笑の的でした。

「すべてがいつも通り。リラックス、リラックス。悔い改めもなく、立ち返ることもない。リラックス。」
天のお父さま、このことが私たちの聖書に書かれていることに、あらためて感謝します。このことが私たちの聖書に書かれていることに、あらためて感謝します。良いことです。厳しいですが、良いことです。私たちはそれを聞く必要があります。主よ、それは真実です。真実です。エレミヤの時代にもそうでした。それは、現代においても確かに言えることです。それは起こります。それは、素早く、激しくやってくるでしょう。

主よ、あなたは預言者的にそうなると告げられました。主よ、どうか私たちが、あなたの御言葉の中で共に過ごしたこの時間の終わりに、ただそれが火と金槌となり、もみ殻ではなく麦となることを祈ります。

主よ、困難であっても、それが私たちの人生に必要な効果をもたらしますように。

主よ、本当に感謝します。私たちはあなたを本当に愛しています。主よ、マラナタ。主イエスよ、早く来て下さい。ああ、イエス様、早く来て下さい。イエスの御名によって祈ります。アーメン。